



子どもの権利推進委員長
・岩手大学教育学部
田代高章 教授（52）

子どもの権利推進委員長より

子どもの権利を考えると「子どもが、いかに自分自身の考えで判断し、行動できる人間に育っていくか」ということを意識する必要があります。子ども自身が、自律的に行動できる力を身につけることが重要です。そのためには、まず、親子の間、先生と生徒の間、そして学校の生徒同士の間で、子ども自身が意見表明できる場を設けること。また、子どもと大人が正當に議論できる環境を作ることが大切です。それが子どもの権利を育むことにつながります。

子ども権利条例が、その出発点に位置付けられ、推進計画を基に具体的な施策が実施されることで、奥州市民だけでなく岩手県民全体の子どもの権利についての意識が変わっていききっかけになると期待しています。

（2月26日開催の「25年度第2回子どもの権利推進委員会」の会長コメントより抜粋）



中高生との子どもの権利に関する意見交換会（6月23日）

子どもの権利を守るための具体的な計画

推進計画の期間は、26年度から30年度までの5年間としています。子どもの権利を保障するためには、子どもにとって最善の方法を考える必要があります。計画の中では、子どもの権利の保障に向けた市の取り組みを示すだけでなく、保護者や子どもが育ち・学ぶ施設の関係者、地域住民における取り組みも定めています。

ここで、推進計画の主な内容をお知らせします。

■基本目標および推進施策

■基本目標1 自分の良さを認めることのできる心を育みます。

〔推進施策〕 自己肯定感を高める子育て環境を推進します。

①親子のふれあい推進

②親が自信を持って子育てできる環境づくり

■基本目標2 子どもが参画できる機会を増やします。

〔推進施策〕 子どもの主体性に配慮した取り組みを推進します。

①地域における子どもの活動の充実

②学校における子どもの自主的な活動の推進

■基本目標3 相手を思いやる気持ちを育てます。

〔推進施策〕 子ども自身の子どもの権利に関する学びを支援します。

■基本目標4 子どもの権利に対する意識を高めます。

〔推進施策〕 子どもの権利に関する普及啓発に取り組みます。

●基本理念

「全ての子どもがいきいきと輝き、のびやかにたくましく育ち、幸せな人生を送ることができるまち」と基本理念を掲げ、一人一人が子どもの権利を理解して子どもの育ちを社会全体で支えていくまちづくりを推進します。

●基本目標および推進施策の体的内容

基本理念を実現するため、右記のとおり4つの基本目標を掲げ、推進施策に沿って具体的な取り組みを進めます。

基本目標1では、特に乳幼児期の子育てに主眼を置いています。親子関係がより豊かなものになるよう、遊びや読書などで親子が触れ合う機会を積極的に創出し、保護者が愛情を持って子どもに接しながら、守り

育てることで「自分が大切にされている」と子どもが感じられるような「ほめる子育て」を進めます。また、父親と母親が自分に自信を持って子育てできる環境づくりを進め、協力して出産・育児に臨む意識づくりを進めます。

子育てには、事業者などの理解も必要です。子育て期の従業員が仕事と子育てを両立できるよう、職場環境づくりに努める必要があります。

基本目標2では、子どもを地域の一人として大切にし、地域行事や奉仕活動、体験活動に参加しやすい雰囲気をつくることにしています。虐待や暴力、犯罪などから子どもを守る安全で安心な地域づくりには、地域の協力が必要。これにより、子どもの活動機会や活動場所の拡大につながるものと考えています。

interview

自分自身も考えさせられた

中学生代表の委員として、会議などに3回ほど出席しました。日ごろ深く考えることのない子どもの権利について、とても難しく感じましたが、あらためて考えさせられる機会をいただき、自分なりに刺激になりました。

推進計画ができたことにより、これまで以上に学校や地域などで、子どもの権利を考る機会が増えるといいですね。



子どもの権利推進委員
佐藤輝一 さん（15）

育つには生の声が必要

知人の紹介で、委員に公募しました。子どもとの意見交換会では、前向きな考えを持ち、積極的な子どもがたくさんいることに關心させられました。

しかし、最近は自信を持ってない子どもも多くいます。子どもが育つには、人とたくさん話すことが大切。この推進計画で、大人たちの意識が変わればと思っています。



子どもの権利推進委員
亀卦川知子 さん（63）

※「子ども」…18歳未満の人、「子どもが育ち・学ぶ施設」…幼稚園や保育所、学校などの施設



子どもの権利を認めるといことは、子どもを甘やかすとか言いなりになるということではありません。子どもには、大きな可能性が秘められています。過保護にしたり無視したりしないで、その可能性を良い方向に導きましょう。家庭はもちろんのこと、学校や地域など日常の子どもの関わりの中で、これまでより少しだけ深く子どものことを考えてみましょう。それが、次代を担う子どもたちを育む大きな力になるのです。